

**行ってきました！**

**長崎**



**～原水爆禁止世界大会に参加して～**

**2011年8月5日～10日**

- 1、 原水爆禁止世界大会**
- 2、 全国高校生平和集会**
- 3、 分科会**

**「原子力発電と電発事故について考えよう」**

- 4、 長崎散策**
- 5、 全体を通して**

# 原水爆禁止世界大会

原水爆禁止世界大会には、25カ国から87名の海外代表の方が参加しました。長崎市長をはじめ、セルジオ・ドゥアルテ国連軍縮問題担当上級代表など多くの方が壇上に立ち平和に対する訴えをしてくださいました。皆さん、核兵器は、後世に継ぐべきものではない。と発言していました。私もそう思います。でも、今世界では、核兵器の伝染が起きています。どこかの国で核兵器をつくれれば負けじと他の国でも核兵器をつくり始めるというように、核軍拡競争があるのです。このように自国に核兵器があるからと言って、武力で抑えるという考え方は間違っていると私は思います。だからこそ、話し合い協力することが国際平和になるために一番大切なことだと思いました。キレイ事に聞こえるかもしれないけれど、やっぱり武力や威嚇では解決しないと思う！！永久に平和な世界はこないと改めて思いました。

原水禁では、被爆者の方のお話を聞くことができました。今、私たちが直接被爆者の方から話を聞けると言うことは貴重な経験だと感じます。この経験が、できるのは私たちの世代が最後だと、今年の3月11日までは思っていました。しかし、福島で原発事故があり、大量の放射能が大気中に放出されました。このことによって、きっと被曝者がでたと思います。「長崎を最後の被ばく地に…」という思いは届かず、また日本で被ばく地が1つ増えてしまいました。ヒロシマ・ナガサキ・ビキニ・フクシマ 日本は4回も被ばくしているのです。しかも、それは全て人災。核兵器や原発がある以上また第5、第6の被ばく地ができると私はこの大会に参加して感じました。静岡もその1つです。今、浜岡原発は一時的に停止していますが、永久停止をしなければこの不安からはのがれられません。だからこそ私たちが署名活動を行い、1人でも原発反対者を多くし、その和を静岡でも広げていこうと思います。世界大会を通して、同じ気持ちになって行動を起こし訴えかけている人々が世界中に沢山いると知り心強くなりました。もっともっと、身近な人にも訴えかけ原発ゼロ・核兵器ゼロになるように努めていきたいと思いました。皆さんも、一緒にがんばりましょう！そして、平和な世界をつくっていきましょう！！



# 全国高校生平和集会

～藤田祐幸先生のお話～



全国高校生平和集会は、午前中、特別講師の藤田祐幸先生を招き講話を聞きました。藤田先生は、どんなことも隠さずストレートに私たち高校生に伝えてくれました。先生は、「二度と被ばく者を出さない。そのために私は今まで人生をかけてきた。でも3/11に敗北した。」と言い、「今になって僕の話の聞いてはダメなんだ！もう起こってしまったんだ。」と声を大にして言いました。「あなたたちの世代に、原爆というものを残してしまって申し訳ない。」と言ったとき、私は胸が苦しくなりました。反対運動を一生懸命やってきてくれている立場の先生から謝罪の言葉を聞いたときは本当になんとも言えない気持ちでした。

労働者被曝の話もしてくれました。日雇い労働者の方が4万人ほどいて原発事故後、原子力発電所に人が入って調べられるような状態や環境をつくるために、発電所の中の床を全て水ぶきすると聞いてすごく驚きました。その労働者の人達はすぐに解雇されてしまうので被曝の症状がでてもどこからも補償を貰えるわけではなく、何もしてもらえません。同じ人間が道具のように扱われている現実に心が痛みました。それと同時に、このようなことを隠し通し今もまだ原発を止めない人達に憎悪がわきました。

他にも、死の灰について話してくれました。ナガサキやヒロシマの一度の原爆投下での死の灰は1kgでしたが、原発は一年間の運転で1tの死の灰がでるそうです。つまり、毎日(一日の運転で)3回地上で原子爆弾が投下されたことになります。私は、今までこのようなことを知りませんでした。私たちの住む静岡県を始め日本にあるいくつもの原発で毎日3kg以上の死の灰がでていると考えたらゾッとしました。福島だけでなく、他県でも原発や放射能の恐ろしさはあるのだと思いました。だから原発事故も福島だけの問題ととらえずに私たちにも密接に関わっている問題なのだ。と再確認しました。



# 全国高校生平和集会

～分科会：「原子力発電と原発事故について考えよう」～

午前中の藤田先生のお話をふまえて、午後の分科会では「原子力発電と原発事故について考えよう。」という会に参加しました。他県の高校生と意見交換をして私は原発に対する思いが強くなりました。やはり、集まった高校生は皆、原発反対でした。でも、原発を永久停止にしたら電気はどうなるのか、私たちの生活は大丈夫なのか、という不安も正直あります。だから、この分科会では、原子力以外の発電方法も考えました。

まず、どんな発電方法があるのか皆であげていき、その発電方法の短所や長所もそれぞれあげていこうということになりました。発電方法は、火力発電や自然エネルギーの中の水力発電、風力発電、太陽光発電、地熱発電、波力発電など、どんどん名前があがりました。でも、短所や長所はなかなかあがりませんでした。まだまだ、知らないことだらけだと実感しました。しかし、そのような中でも、サポートしてくれていた大人の意見も聞きつつも皆で討論を進めていきました。その結果自然エネルギーへの転換をするべきだ、という考えにおち着きました。なかでも、地熱発電は期待できそうです。地震大国日本だからこそ、火山の力をかりて熱をつくるということはいいと思います。

自然エネルギーは、まだ知名度が低いです。私も名前ぐらいしか知りませんでした。だから、まず知ることが大事だと思いました。知ったうえで、深く考え原発問題や今後の発電方法などとしっかり向き合っていく必要があると感じました。

この高校生集会に参加して、いろんな県の高中生と話し合いができて同世代の人たちと交流ができました。その中で、人それぞれいろんな考えを持って行動していると分かりました。私も、刺激を貰い、今こうして一人での多くの人に自分の意見を伝えるために行動を起こせるようになりました。



# 長崎散策

## ▼原爆資料館

今回行った長崎の原爆資料館で広島と同じように当時の原爆による被害、その時のまま保存されてあるものなど生々しく展示されているものが多くありました。

広島と違う部分と言えば、やはり使用された爆弾です。広島のリトルボーイと違い長崎に投下されたファットマン(太っちょ)はその名の通り大きく丸い形をしていました。

そして私が一番驚いたのは、原爆の熱量です。太陽が6000℃であるのに対し、原爆は3・4000℃あるそうです。実際、その熱を受けた人が過去何人もいると思うと本当に胸が苦しくなりました。そして、放射線の被害…。初期だけではなく10年以上経った後も重い病にかかる可能性があります。そして未だに放射線による人体・環境にかかる影響については科学的解明がされていません。

今、原発問題がある中、自分の命を守る為には、自分が行動を起こさなければならないのです。



## ▼片足鳥居

この鳥居は、山王神社の二つの鳥居として建てられましたが、原子爆弾のさく裂と同時に猛烈な爆風によって片足がもぎ取れてしまいました。強烈にふく射熱線によって鳥居の上部が黒く焼かれ、爆風によって片足と上部の天地石材が破壊され、そして、上部に残された笠石が風圧でねじ曲げられたそうです。その状況を示すものとして、今だに残されています。

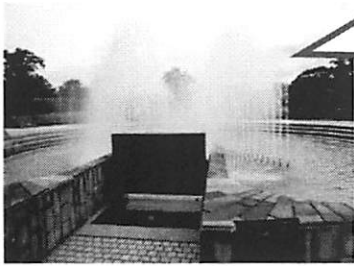
爆風で飛ばされたものも、近くにそのままの形で保存され、当

時の悲惨を私たちに伝えています。



☞被ばくした楠

## ▼平和公園



### ●平和の泉

のどが乾いてたまりませんでした  
水にはあぶらのようなものが  
一面に浮いていました  
どうしても水が欲しくて  
とうとうあぶらの浮いたまま飲みました  
(ある日のある少女の手記から)

原子爆弾が落とされた当時、街は火の海に包まれ、あつさと喉の渇きにたえることができず、人々は水を求めました。この噴水は追悼をあらわし、平和の象徴であるハトをモチーフにして作られています。少女の言葉からも分かるように一面にあぶらが浮いている、そんな状態でも水が飲みたかった、飲むしかなかった。それだけ、当時飲み水に困り、強い熱線を浴びていたということが分かります。このようなものを置くことで、たくさんの人に見てもらい、当時の人々の苦しみや痛みを少しでも感じて、原爆の恐ろしさについて考えてもらえれば、という思いを伝えたいのだと思いました。

今、福島で起きている原発の問題、これは福島だけの問題ではなく、日本全体、世界の問題であると言えます。1人1人が少しでも原爆・原発について関心を持ち、知識を得る、核の恐ろしさについて考えることが大事です。今だからこそ、過去から目を背けず向き合っていかなければならないのです。



### ●平和像の由来

垂直に高く揚げた右手は、原爆の脅威、  
水平に伸ばした左手は、平和、平等、  
横にした右足は、原爆投下直後の長崎市の静けさ、  
垂直に立てた左足は、原爆の恐怖、怒りを表し、  
軽く目を閉じた表情は、原爆犠牲者の冥福を願い、祈っている。

## 全体を通して

長崎で過ごした3日間は私に色々なことを考えさせてくれました。原水爆禁止世界大会や全国高校生平和集会に参加し、海外の方、他県の方、私たちよりも先輩の方、同世代の方、本当に多くの平和を願う人たちから話を聞くことができ、私も平和に対する意識が深まったと思います。長崎に行くまで私は、原発のこと、放射能のことを名前だけ、ただ「恐ろしい」ということだけしか知りませんでした。長崎から帰って来た今でも、分からないこと、知らないことがたくさんあります。「原発反対!!」「原発反対!!」というだけでなく、どうしてダメなのか、どのように危険なのか、原発をなくしたときの電力はどうまかなうのか、などをもっと考えていかなければならないと思いました。そもそも、電力があればあるだけ使ってしまうのではないか、電気があることがあたり前になり使えるだけ使っている状態でいいのか!という疑問もわいてきました。情報が規制されている今だからこそ、『知る』ということが必要だと思いました。ありのままの現実を知り受け止めることが大切だと感じました。そして、自分の意志を持ち、発信していくことが、今私たち高校生にできること、必要なことだと思いました。

長崎から帰ってきたその足で、参加した高校生5人で報告パネルを作りました。



長崎に行き、世界大会に参加し、平和のこと・今年の震災のこと・原発のことなどを知る機会が出来ました。そして、このようなことを考え始めるきっかけを私たち高校生に与えてくれてありがとうございました。